

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 1月 26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203245		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホーム よってきんさい草津		
所在地	〒733-0863 広島市西区草津南1丁目6番12号 (電話) 082-501-4622		
自己評価作成日	令和1年12月14日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470203245-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470203245-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年1月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>民家改造型のグループホームです。家庭的な雰囲気大切にしています。事業所の隣には広い公園があり、天気の良い日には歩行訓練と気分転換を兼ねて散歩に出かけています。町内会に加入し祭りや行事を通して、地域の方と交流を楽しんでいます。入居者一人ひとり、できる事が継続できるよう支援に努めています。家庭医の協力を得ながら、法人看護師と共に看取りを行っています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>顔見知りとなった老人会や子供達などと挨拶や交流を重ねている。民家ならではの昔懐かしいダンスや障子があり、台所と繋がったりビングは、食事準備の音や匂いの中、職員や利用者同士の会話も聞こえ、支え合いながら共に過ごす空間づくりに努めている。職員は会社理念の下「皆がいきいきと温かく暮らせるホーム作り」を目指し、「本人の誇りや意欲を損なわないケア、人格の尊重」を強く意識しており、平素から気遣いのある関わりや優しい対応をしている。看護師資格を持つ職員が配置されており、主治医や薬剤師からの医療情報は、迅速に日頃のケアに繋がっている。終末期は医師を中心に、法人代表のサポートも得ながらチーム全体で、本人家族の気持ちに寄り添った温かいケアに取り組んでいる。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	有限会社美泉の開設以来、運営理念をもとに各事業所で目標をたて、毎朝申し送り時に唱和し意識することで、目標達成に取り組んでいる。	開設以来、変わらない会社の理念を職員は常に意識し、事業所としての目標を毎年、掲げている。それを下に日々の具体的な目標を定め、定期的に振り返りを行っている。目標である身体機能向上の支援としての散歩が出来ない時は、室内歩行やスクワットに代替するなど工夫しながら、職員全体で理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の公園に散歩に出かけ、近所の子供たちや地域の方との交流をしている。町内会に加入し季節の行事に利用者と共に出かけ、楽しませてもらっている。	隣接する広大な公園に訪れる地域の方や子供達と顔馴染みになり、散歩時には挨拶や自然な会話を行っている。回覧板や運営推進会議で地域イベントの情報を得、町内会からの誘いで利用者と共に参加している。とんどの際、地域から椅子提供の依頼もあり、楽しみながら地域との交流が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議などで、質問を受け参考例をお話しさせていただいている。入居相談時に対応策などお話しさせて頂く事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、入居者と一緒に参加し日頃の活動状況を伝え、評価や意見を頂いている。町内会の行事や取組をお話いただき入居者と共に参加できる行事には参加している。町内の方との交流を楽しんでいる。	ほぼ毎回、町内役員・地域ボランティア・地域包括支援センターの出席があり、可能な時は利用者の発言を引き出したり気持ちを聴きながら会議を進行している。出席の難しい家族には、会議中の利用者の様子をお知らせする等の工夫を予定している。事業所から外部評価の結果を伝えたり、避難方法などについて検討が行われている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活課担当者が福祉の支援を受けている入居者の面談に来られた時、日頃の様子をお伝えしている。運営推進会議には包括支援センターの方に出席頂き、日頃の様子を伝えている。	行政による研修、地域包括支援センター主催のセミナーに出席し情報収集を行い、時には会社を通じて行政に相談をしている。地域包括支援センターから100歳体操参加への助言や地域情報など得ており、日頃から連絡を取り協力し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修や身体拘束についてのマニュアルで学び理解している。ベット柵は必要以上使用せず、車椅子使用时には抑制帯なども使用していない。玄関は日中は施錠せず開放している。</p>	<p>内外部研修にて職員は、身体拘束ゼロを強く意識し日頃のケアに取り組んでいる。毎日、地藏さんに自由に参る事が日課になっている利用者の表情や行動から、それを予期し制止する事なく付き添ったり見守っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修で虐待防止について学んでいる。職員同士お互い注意し合い、虐待がないよう取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内研修やマニュアルで学び理解に努めている。必要と思われる時には、上司に報告、相談し支援に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際には、重要事項説明書により説明している。質問を受け納得頂けるまで説明をし、署名を頂いている。契約後もいつでも問い合わせ頂けるよう説明し、対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。面会やお電話を頂いた際にも要望等お聞きするようにしている。入居者からの要望は日常生活を通してお聞きし、上司に繋げ、要望が反映出来るようにしている。</p>	<p>家族の来所時や電話で、利用者の様子を伝えながら意見や要望を聴き、検討して実現に繋げている。利用者からの意見が好みの「おかき」に変更したり、拘りなどから部屋替えの要望時にも柔軟に検討する等、職員に要望を言い易い雰囲気作りを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送り時やミーティングにより職員の意見を聞いている。事業所内で話し合い代表者の意見も聞き、改善に努めている。</p>	<p>管理者は日頃から、行事時の食事やレク内容、勤務希望など、職員が意見を言い易い雰囲気配慮している。職員ミーティングにおいて、利用者の体調保持の為に季節によって各シフトの業務内容や時間帯を変更した例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>事業所への訪問や申し送り、会議などで状況の把握に努めている。家庭状況に合わせた勤務時間の調整や、研修参加時には勤務時間の調整をするなど配慮している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修参加の案内や職員個人に合った研修参加の呼びかけをしている。資格取得時には、お祝い手当を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域の研修会や交流会に参加している。社内の他事業所へ現場研修に出かけ学び、日頃のケアに活かしている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前、自宅や病院に訪問し困っている事や本人の気持ちなどを聞き、相談に乗るなどしながら関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前面接でしっかりお話を聞き、説明しながら関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族からお話を伺いながら、本当にその時に合ったサービスが受けられるよう、検討し必要時には包括に繋がったりしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>その人に応じた能力を活かし作業を見つけ助け合いながら生活している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>毎月、家族に手紙で日頃の様子をお伝えしている。面会時にもお伝えしながら、困りごとなど相談し一緒に考え、検討している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの病院や美容院にお連れしている。友人や知人の訪問時には居室にてゆっくりお話しできるよう支援している。</p>	<p>今まで縁があった方々を利用者と同じ気持ちで大切に思い、馴染みの医療機関受診に付き添ったり、面会時は再来所に繋がるよう声かけを行っている。隣接する公園に訪れる人や運営推進会議のメンバーと顔馴染みとなるよう、新たな関係作りの支援も行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の相性を考慮し、席を決めている。入居者同士作業するうちに、良い関係が築ける場合もあるが、そうでない場合は職員が間に入り、お互いが関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後、転所先には情報提供を行っている。退去後も要望があれば相談に応じている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を用い、本人や家族、関係者から情報収集を行っている。聞き取り困難な場合には、表情などからも、くみ取るよう努力している。	共に生活をする中で把握した利用者の要望は、申し送りノートに記載し、ご飯の軟らかさなどケアに活かしている。平素の表情や仕草からも気持ちの変化をくみ取る事を大切にしている。ひとりでは困難となった生活動作は、どの部分を手伝って欲しいかを聴き、実現している例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係者よりこれまでの様子を含め聞き取りし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前は本人や家族、関係者より聞き取りを行い、入居後は生活日誌に日々の様子を記録し、職員全員で把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の面会時を利用し意見や要望を聞いている。日常生活の中で入居者の様子や会話を観察記録し、申し送り時など職員の意見を聞き話し合い、介護計画を作成している。</p>	<p>担当者から日頃の情報や医師からの医療情報を含め、計画作成者がセンター方式でのアセスメントを行い、課題などの話し合い後、介護計画を作成している。不眠時の背中さすりなど具体的なケア計画となっている。職員の意見も聞きながら毎月、モニタリングを行い現状に即したプランを作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活日誌に毎日の様子や気づき、状態を記録している。大切なことは申し送りノートを作成し記録し、情報の共有に努め、介護計画にも反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>通院や入院の準備や付添を必要時には行っている。手術時家族が付き添えない場合などにも、必要な限り支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣公園への散歩や買い物に同行している。町内会の行事に参加できるよう、町内会長や民生委員さんに協力頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所の家庭医は決まっているが、入居前の病院が希望であれば継続している。入院が必要な場合には、専門医を紹介して頂き、早急に適切な治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医は自由に選択できる事を入居時に説明している。現在は全入居者が事業所の協力医を主治医としている。内科・整形外科の定期的な往診があり、夜間や緊急時も医療連携がとり易い体制となっている。歯科など他科受診時は、職員は介護要約を持参し適切な医療が受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の生活の中で、状態の変化や気づきを法人の看護師に連絡し相談している。必要時には医師に連絡し適切な治療が受けられるよう支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護要約などで情報提供をしている。入院中は面会に行き経過を伺いながら、地域連携室とも連絡を取り合い、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の対応の説明と家族の意向を聞いている。重度化した場合には改めて説明し、本人、家族の意向を確認し家庭医と看護師、職員が協力し対応、支援している。	重度化や終末期の場合、主治医を中心に改めて家族の意向を聴き、事業所の方針を伝え、ケアプランを作成し、チーム全体でケアに取り組んでいる。本人家族の気持ちに添う事を大切にしており、同室で過ごして貰う支援も行っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルをもとに緊急時の対応や実践を学んでいる。定期的にマニュアルを確認している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回行っている。運営推進会議を通して町内会長や地域包括支援センターの方と災害時の対応を話し合っている。	ハザードマップによる危険地域指定は無いが、火災・自然災害を想定して年2回、避難訓練や避難経路の確認を行っている。運営推進会議で、より具体的に話し合う事もある。	ここ数年、消防署と共に行う避難訓練が無いので（例えば運営推進会議と同時開催にするなどで）実現させ、町内会や近隣の方々と協力し合える体制を築くよう期待する。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄の失敗の際には、他の入居者に気づかれないようそっと声をかけている。肌が見える処置等は居室や洗面所で行っている。	毎年、内部研修にて法人代表による研修が継続されており、プライドを損なわない対応を職員は日頃から意識している。より好ましい伝え方などを具体的に話し合い、現場で振り返りを行うなど、人格の尊重の実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	迷ってしまい自己決定出来にくい際には、選択肢を絞り自己決定しやすいよう支援している。耳の不自由な方には、筆談で説明を補足している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課は決まっているが、希望を取り入れたり体調にあわせゆっくりして頂くなど配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	車椅子の方もタンスの前まで誘導し、本人の着たい服を選んで頂いている。整髪や髭剃りが難しい方は職員が介助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	苦手な食材や食べられない食品を確認し、別メニューで提供している。食材の下ごしらえや片付けを一緒に行っている。	決められた献立に合わせ食材は配達されるが、要望があったりイベント時は「食」の話題で盛り上がる献立に変更している。近くに漁港があり、週1回の刺身の日は、楽しみとなっている。料理の下準備や配膳下膳などを手伝いながら家庭的な食事場面となっており、職員は個々の食事量や嚥下状態などに合わせた声かけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分量は、個々の生活日誌に毎日記録し把握している。摂取状況により、食形態の変更や捕食をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、本人による口腔ケアを行っている。必要に応じ職員が仕上げ磨きを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>生活日誌の記録を活用し、本人のパターンの把握に努めている。日中は布パンツで過ごし、夜間はリハビリパンツに変え対応している方もいる。</p>	<p>個々の排泄パターンに合わせ、プライドに配慮しながらトイレを勧めている。介助時は、気持ちを合わせてスムーズなトイレ動作になるように、職員は次の動作を伝えながら付き添っている。昼のみ布パンツで過ごす事が出来た例や、大きいパットから小さいパットに変更になった例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表を用い毎日確認している。空腹時に牛乳を摂取したり、野菜をしっかりとれるよう味付けに工夫するなど、便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>最低週3日の入浴を曜日や順番を決めず、その日の体調や気分に合わせて提供している。柚子湯やしょうぶ湯など季節を感じて頂けるよう取り入れている。</p>	<p>その日の体調や要望に合わせて、気分よく入浴して貰う事を大切にしている。希望されない時は日を変え、また入浴後の保湿剤など個々に応じた入浴の支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>職員の都合のトイレ誘導は行わ ず、本人のパターンに合った声掛 けを行っている。日中の活動量 を増やし、程よい疲労感による 気持ちのよい眠りにつけるよう 支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>個々の生活日誌に薬の説明書を 綴じ、誰でも確認出来るように している。薬に変更があった場 合は、申し送りノートに記入し 全員に周知している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの特技や習慣を活か し、生活の中で役割を持てるよ うにしている。楽しみ事は個々 に違うため、個別レクリエーシ ョンを取り入れている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>日々の散歩や買い物の他、町内 の祭りや他事業所との合同花見 など出かける機会を設けている。 本人の希望を家族に伝え、協 力して頂く事もある。</p>	<p>その日の気持ちに合わせて散歩 や買い物などに出かけている。 近くの地藏さんにお参りするな ど個々の支援の他、春には手作 り弁当で花見を予定している事 を伝える等、外出が楽しみにな るよう支援がなされている。家 族協力により外食に行く事もあ る。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>預り金は出納簿を作り管理して いる。本人と一緒に買い物に出 かけたり、難しい場合は本人の 承諾を得て、職員が代わりに 買い物に行くなどの支援をして いる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望時には電話の子機を利用し、好きな場所で電話をかけて頂いている。ご自分で手紙を書くことが難しい方には職員が月一回のご家族への手紙に代筆している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>食堂とリビングが別があり、食後にはリビングのソファでゆっくりされる方もいれば、食堂で作業される方もいる。それぞれ好きな場所で過ごされている。季節に応じてエアコンやファンヒーターで室温調整をしている。</p>	<p>共用スペースは、リビングソファや食堂椅子で自由に過ごせる配置となっており、民家ならではの家庭的な生活感ある雰囲気となっている。台所と繋がっており、食事準備の音や匂いの中、職員や利用者同士の会話も聞こえ、支え合いながら共に過ごす空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや居室、廊下に椅子やソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。それぞれの場所で仲のいい方同士が話をしたり、一人で外を眺めたりされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使われていた馴染みの家具を持ち込んで頂き居室づくりをしている。家族の写真を飾ったり、以前より使い慣れた化粧品を続けて購入している。</p>	<p>各居室の造りがそれぞれ異なっており、障子から陽が差したり、(元)床の間も個々の思いで活用するなど一人ひとりが過ごしやすい居室作りがなされている。好みの人形や見慣れたカレンダー、使い慣れたミニタンスなど置いている。動きやすいように安定感のある椅子を置くなどの個々に合わせた配慮を行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや浴室には表示をしわかりやすくしている。浴室や廊下には手すりを付けている。浴室には入浴サポート用に踏台を置いている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい草津

作成日 令和2年3月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防訓練が形だけのものになっており、専門家からのアドバイスも必要である。	消防署員さんに来所して頂きアドバイスを受ける。	避難訓練の計画を早めに立て、消防署員さん立ち合いの訓練を行う。	1年
2	4	運営推進会議に家族の出席がない。 家族の事情もあり難しい。	運営推進会議に家族に出席して頂く。	引き続き面会時など家族に内容等伝えながら出席のお願いをしていく。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。